



2024年度
第1号

体育市民連帯 ニュースレター

大韓民国スポーツの

根本的変化を

皆さんと共に

作って行きたいです

体育市民連帯と共に

していただけますか？

甲辰年
オリンピックの年…
韓国
名誉回復するか？



体力評価を小5以上→
小3以上に拡大…
学校スポーツクラブの
活性化



「障害学生の体育時間」
基本計画初反映
第3次学校体育振興
基本計画の意味



性暴力入試不正横領…
大韓体育会が黙殺した
スポーツ倫理センターの
懲戒要求



「悪化の一途」
文化体育観光部 VS
大韓体育会
甲辰年は前に進むのか





새해에는 모든 꿈과 희망이 이루어지길 기원합니다.
새해 복 많이 받으세요!

체육시민연대 드림

01 MK 스포츠 2023. 12. 28

甲辰年オリンピックの年…韓国、名誉回復するか？



数日後に明ける 2024 甲辰年の新年はオリンピックの年。7月26日から8月11日までフランス・パリで開催される第33回夏季五輪は、1924年パリ五輪以後、まさに100年ぶりにパリで開かれる。

フランス語の「Venez partager」（来て分かち合おう）をスローガンに掲げた 2024 パリ夏季五輪は陸上、水泳、体操など 32 種目にかかった 329 個の金メダルをめぐる国際オリンピック委員会（IOC）200 余りの加盟国が参加し、17 日間の熱戦を繰り広げる。

2021 年に開かれた 2020 東京五輪で総合順位 16 位に墜落した大韓民国が果たしてパリ五輪で名誉を回復するだろうか。しかし、見通しは明るくない。この4年間、きちんと準備できなかったという指摘が出ているためだ。

李ギフン大韓体育会長「非常に心配だ」

「今のような状況なら、金メダル 5、6 個も難しいかもしれない」

2024年パリ五輪を控え、大韓体育会の李ギフン会長が悲観的な見通しを示した。李会長は14日の記者懇談会で、「来年のパリ五輪を準備しているが、非常に心配だ」とし、「今予想しているのは金メダル5、6個程度だ。フェンシングとアーチェリーを除けば、実質的に（金メダル獲得は）断言できない」と話した。

李会長は、「(2016年リオ五輪)以前まで総合順位10位圏を維持していたが、(今のような傾向なら)総合15位から20位圏の間になると予想している。出場権を取れなかった種目が多くて心配だ」とも話した。続いて彼は「これまでオリンピックに行けば普通韓国選手団の規模が250人から300人の間だったが、下手をすると200人にもならないかもしれない。メダルより最善を尽くすことが重要だというのが、いざ大会に出場する選手にとってはメダルを取ることが最高の光栄だ」と説明した。

李会長は「バドミントンのアン・セヨンや水泳のファン・ソンウなどもいるが、その他の種目では金メダルが容易ではないと思う」とし「現在客観的な実力だけで見てもメダル権さえ入っても満足する雰囲気」と伝えた。

大韓体育会はアーチェリー、フェンシング、女子ハンドボールなどを除いた球技や投機種目が振るわず、五輪出場権獲得自体ができないことに対する懸念が非常に大きい。実際、ボクシング、レスリング、柔道、バレーボールなどは過去の親孝行種目に挙げられたが、最近では地域予選で脱落、メダル獲得どころか本選進出自体が難しいのが実情だ。

大韓体育会は鎮川国家代表選手村にタスクフォース(TF)チームを設け、どの種目に集中し、競争力も引き上げるか悩んでいる。李会長は「大韓体育会も多様な分析を通じて準備しているが、絶対容易ではない」として「より多くの人々の関心が必要だ」と伝えた。

韓国体育、アジア大会でも遅れを取り続ける

韓国は1984年LA五輪から2000年シドニー五輪(12位)を除いて、2016年リオ五輪まですべて「トップ10」に名を連ねた。しかし、李ギフン会長が2016年10月、大韓体育会の首長に就任した後、韓国エリート体育の競技力は急転直下、2021年に開かれた2020東京五輪で総合16位(金6、銀4、銅10)に止まった。

韓国は2023年に開かれた2022杭州アジア大会でも総合2位の日本(金52、銀67、銅69)に続き、総合3位(金42、銀59、銅89)にとどまった。韓国は2018年ジャカルタ・パレンバンアジア大会で金メダル49個にとどまり、75個の日本に総合2位の座を明け渡した。

アジア大会も2016年、イ・ギフン会長が大韓体育会長の座を引き受けた後、日本に総合2位の座を明け渡したのだ。韓国は1998年バンコクアジア大会で金メダル65個で日本(52個)を抜いて総合2位に上がった後、2014年仁川アジア大会(金メダル韓国79、日本47)まで16年間日本をリードしてきた。

代表選手に前近代的なトレーニング方式を酷評

一方、国家代表選手団および京畿団体役職員など400人余りは18日から20日までの3日間、浦項海兵隊1師団で海兵隊キャンプを進行した。

名分は、韓国選手団の精神力を強化し、東京五輪での不振を挽回し、再跳躍できる新たなきっかけを作るためだ」と説明した。同キャンプには李ギフン会長や体育会の職員らも参加し、選手らの負傷などを考慮して精神力強化プログラムを目指したと明らかにした。

しかし、民主社会のための弁護士会（民弁）文化芸術スポーツ委員会と文化連帯の4団体は21日、ソウル中区の国家人権委員会前で記者会見を開き、「国家代表選手の海兵隊訓練は身体自由権を侵害する懲罰的克己訓練だ」と批判した。

団体は陳情書で「大韓体育会と李起興会長が低調な国際大会の成績を理由に選手たちに正規訓練ではなく懲罰的克己訓練に参加するようにした」とし「国際オリンピック委員会（IOC）憲章に明示された『選手人権保護義務』を放棄したまま、むしろ反人権的訓練を決定し実行した」と主張した。

体育界でも「氷点下10度前後の厳しい寒さに精神力強化を名分に代表選手たちを酷寒の中に追い出したのは50~60年前の前近代的な訓練方式と何が違うのか」という批判と共に「大韓体育会首脳部の企画力に限界を見せた」という指摘が提起された。ユ・インチョン長官ら文化体育観光部関係者らも、代表選手らの海兵隊克己訓練に批判的な評価をしたという。

2022年北京冬季五輪に続き2024年夏季五輪の総合順位を15位圏外に下方修正し、大会が終わった後「目標達成」したと広報資料を出す大韓体育会の「マインド」が情けない。

この40年間、冬季五輪を問わず総合順位「トップ10」に入った韓国体育が、どうして15位圏外に押される状況に至ったのか、自ずとため息が出る時点だ。

出典：<https://mksports.co.kr/view/2023/988962>

02 聯合ニュース 2023.12.26

体力評価を小5以上→小3以上に拡大・・・学校スポーツクラブの活性化



政府が生徒たちの体育活動を増やし、全人的成長を支援するために2026年から体力評価対象を初等学校5年生以上から初等学校3年生以上に拡大し、学校スポーツクラブを活性化させる。

政府は26日、政府世宗庁舎で第10回社会関係長官会議を開き、このような内容を中心とする「第3次学校体育振興基本計画」を発表した。

「学校体育振興基本計画」は関連法令により教育部と文化体育観光部が5年周期で発表する法定計画だ。新型コロナウイルス感染症で学生たちの運動量が減り肥満率が高くなるにつれ、政府は学生たちが全生涯にわたって体力・健康管理と体育活動を生活化する基盤を作ることにした。

まず学校で実施する学生健康体力評価(ポップス)が一般国民対象である文体部の「国民体力100」事業と連携できるように測定種目を一元化する。

学生と成人の体力測定種目を一元化すれば、全生涯にわたって体力変化を分析でき、統計資料としても活用できるようになる。

ポップス対象学年度現行の「初等学校5年生~高等学校3年生」から2026年には「初等学校3年生~高等学校3年生」に拡大する。

これまでポップス4・5等級者が参加していた健康体力教室は肥満学生や希望者も参加できるようにした。学校スポーツクラブを活性化するために学校別・地域別条件により種目を開設し、校内→地域→全国につながる大会を有機的に運営する。

特に一般学生と学生選手が共に参加する「副総理杯学校スポーツクラブ全国大会」と文部部が主催する「青少年スポーツハンマダン大会」を年次的に拡大し一般学生たちの競技力を強化する計画だ。

地域の指定スポーツクラブと学校間の連携を通じて専門体育人材と施設を活用し、生徒たちに学校内外で多様な体育活動参加機会を提供する。

生徒たちが学校と家庭でいつ、どこでも自ら運動に参加できるように「週末体育学校」、「休み中のスポーツキャンプ」など多様なプログラムを普及し、生徒たちが好む種目の地域別週末リーグも拡大する。

これと共に今年「第2次学生健康増進基本計画」で発表した通り、初等学校1、2年生「楽しい生活」科目から身体活動領域を「体育」教科に分離する方を国家教育委員会を通じて議論する。

学生選手の全人的成長のために「学生選手(e)-スクール」を通じたオンライン学習を支援するなど勉強と運動を並行できる条件を作り、学生選手の人権も保護する計画だ。

潜在力のある学生選手たちが専門選手に成長できるよう、学校運動部創立初期費用支援、訓練環境改善、低所得層体育人材奨学支援などを強化する。

体育・一般教師の専門性向上のために学校体育相談チームを設け、生存水泳教育を強化する。障害・非障害学生が一緒に楽しめる統合体育教室も拡大する。

一方、この日の社会関係長官会議では昨年第15回生物多様性協約当事国総会で採択された実践目標履行のための関係部署合同「2030国家保護地域拡大履行計画」が議論された。

同時に拡張仮想世界(メタバース)開発・運営・創作・利用過程で領域別主体が守らなければならない行動様式である「メタバース実践倫理」も議論された。

出典：<https://www.yna.co.kr/view/AKR20231226059600530?input=1195m>

03 スポーツ朝鮮 2023. 12. 26

「障害学生の体育時間」基本計画初反映 第3次学校体育振興基本計画の意味



「文化体育観光部(以下、文部部)と教育部は今回の第3次基本計画で緊密な協業を通じて正規体育授業拡大意志を再確認し、障害学生と非障害学生が共にする学校体育活動内容を初めて反映した」

ユ・インチョン文化体育観光部長官は26日、第10回社会関係長官会議で教育部と共に「第3次学校体育振興基本計画(以下基本計画)」を発表した後、基本計画に初の障害学生体育、統合体育を反映することになった意義を伝えた。基本計画は「学校体育振興法」により学生の自発的な体育活動を推奨・保護し育成するために2014年から5年ごとに文部部と教育部が合同で樹立および施行している。

2022年基準の特殊教育対象者の72.8%が一般学校に進学する状況。障害学生たちの体育時間疎外問題は、国家教育が必ず解決しなければならない課題だ。2023年にも障害学生たちは体育時間に「カクテキ(訳注：漬物状態の意と思われる)」で、運動会の日には「万年応援担当」だ。出生率0.68人時代、クラス当たり20人前後の子供たちのためのオーダーメイド型体育教育、障害・非障害の子供たちが一緒になって疎通し、体でぶつかって違いを学び協力を配慮を身につける統合体育は未来教育が進むべき道だ。スポーツ朝鮮とソウル市障害者体育会が障害・非障害学生の両方の「ソウル林運動会」を毎年開く理由だ。

「皆のスポーツ」を国政課題にした政府が初めて「障害・非障害学生が共にする学校体育」を学校体育振興基本計画に反映したことは意味がある。 文体部体育振興課、障害者体育課と教育部人性体育芸術教育課、特殊教育政策課と数回会議を経て「障害学生と非障害学生が一緒になって楽しめる統合体育教室拡大、教師研修拡大」に第一方向を定めた。 大韓障害者体育会とともに2023年96ヶ所、教師205人を対象にした統合体育教室は、今年100ヶ所、3億3000万ウォンの予算を皮切りに、2028年までに300ヶ所、9億3000万ウォンまで増やしていくことにした。 障害・非障害学生が共にする小・中等体育授業のために指導教師対象の統合体育力量強化研修を運営し統合体育環境基盤造成のために授業教区および運営費を支援する計画だ。

文体部政策担当者は「1・2次基本計画で学校内障害学生体育活動はただ一度も扱われなかった。 障害生徒たちの身体活動は主に学校外の施設で行われた。 3次計画からは初めて障害学生体育活動を入れることにした。 既存の大韓障害者体育会と共にしてきた統合体育教室を拡大する一方、統合体育教育で先生たちの変化、障害学生たちに対する理解が最も重要なので教師研修を拡大することにした」と説明した。「ひとまず始まりはこのようにするが、今後教育部と協業して内容をより一層満たしていこう。 一度も扱われなかった障害学生体育を文体部と教育部が政策に反映し、障害学生たちの学校内体育活動に関心を傾け拡大していくという意志を反映したものと見れば良い」と話した。

一方、この日の「基本計画」には学校正規体育授業を拡大し、学生健康管理を通じて国民健康を管理するなど「草の根」学校体育を活性化するという政府の意志が明確に明らかになった。 全生涯国民体力管理および学生体力増進、学校単位教育課程内体育活動拡大、学生体育活動日常化と共に「学生選手」のための未来体育人材育成強化など4つの課題が提示された。 全生涯国民体力管理のために教育部の学生健康体力評価(以下ポップス、PAPS)を文体部の「国民体力100」事業と連携できるような体力要素別測定種目を一元化する計画だ。 ポップス測定対象も2026年には現行の小学校5年生から下げて小学校3年生から高校3年生まで拡大・運営する。 また「オンライン健康体力教室[e-ポップス]」アプリを普及し、すべての生徒が体力を増進できるよう支援する。 また、生存水泳教育を充実を実施し、プールなど200の学校複合施設を2027年までに年次的に拡充する。

初等学校1、2学年「楽しい生活」科目から「体育」教科を分離し、中学校スポーツクラブ時間を30%拡大するための教育課程一部改正案を国家教育委員会で議論する計画だ。 また、学校スポーツクラブ活性化と共に一般学生と学生選手が共に参加する「副総理杯学校スポーツクラブ全国大会」と文体部が主催する「青少年スポーツハンマダン大会」も拡大する。 学生たちの体育活動の日常化のためにソウル市教育庁の「シーズン2再び走る朝」、釜山の「朝チェインジ(體仁智)」など優秀事例も全国に拡散する予定だ。 また、学生選手たちの勉強と運動を並行できるようにe-スクール(e-school)を通じたオンライン学習支援、学業・進路相談(メンタリング)拡大を通じて学習権を保障し、学生選手人権保護のための学校暴力予防教育も積極的に推進する。 学校体育活性化のためには文体部と教育部の協業が先決課題だという指摘を受け、中央(文化体育部・教育部)と市・道(地域教育庁・地域体育会など)政策協議体を有機的に連携し、学校体育活性化のための政策発掘と懸案を協議していく計画だ。

出典：<https://sports.chosun.com/sports-news/2023-12-26/202312270100157120022182?t=n1>

04 時事ジャーナル 2023. 12. 31

性暴力入試不正横領・・・大韓体育会が黙殺したスポーツ倫理センターの懲戒要求



ダイビング国家代表チームの指導者に抜擢されたチョ・ウヨン仁川市庁監督の未成年者選手に対する性的暴行・常習的な金銭上納疑惑と関連した真相究明と責任者処罰が速度を出せずにいる。大韓水泳連盟は時事ジャーナル報道直後、チョ監督を国家代表チーム指導者から除外したが、スポーツ倫理センターの懲戒手続きは依然として調査段階に留まっている。

真相究明が行われても責任者処罰につながらない可能性もある。スポーツ倫理センターの懲戒決定は強制力がないからだ。スポーツ界の腐敗・不正根絶のために2020年に設立されたスポーツ倫理センターは文化体育観光部に懲戒を要求することができる。しかし最終懲戒決定権は大韓体育会と傘下市・道体育会が持っている。時事ジャーナルの取材結果、大韓体育会・市・道体育会はスポーツ倫理センターの懲戒要求10件のうち4件も履行していないことが明らかになった。

この中には性暴力事件もある。時事ジャーナルが単独入手した「スポーツ倫理センターの事件別懲戒現況」資料によれば、スポーツ倫理センターは2023年1月3日審議委員会を開き性暴行・言語暴力・暴力事件と関連してA選手に対する懲戒を議決した。2022年2月22日には、B選手とC指導者がD選手にセクハラをした事件に対して処罰を要求した。スポーツ倫理センターは最初の申告以後、1年以上事件を調査し、このような懲戒決定を下した。しかし、大韓体育会・市・道体育会はまだスポーツ倫理センターに返信さえしていない。

これだけではない。指導者の暴行と暴言、いじめ、金品授受など人権侵害事件も9件も黙殺された。金の上納、入試不正、選抜戦公正疑惑も同様だった。特にスポーツ倫理センターは「〇〇特技生入試不正疑惑」と関連して懲戒はもちろん捜査依頼まで要求した。しかし、これに対しても何の返事もなかった。2020年9月から2022年2月まで大韓体育会・市・道体育会は計28件のスポーツ倫理センター懲戒要求を黙殺した。懲戒決定後、2年が過ぎても返信がないケースも4件に上った。

入試不正疑惑「捜査依頼」まで・・・それでも応答のない大韓体育会

現在の懲戒システムはスポーツ界の「自浄」だけに頼っている。スポーツ倫理センターは事件調査結果により文体部に懲戒を要求し、文体部はこれを大韓体育会に、大韓体育会は傘下市・道体育会に渡す。結局、被疑者の所属チーム（1次懲戒機関）が懲戒を決定する。被疑者がこれを不服とすれば、所属チームの上級機関である市・道体育会（2次懲戒機関）が事件を見直す。懲戒機関の人的構成上「身内庇護」式決定がなされやすい構造だ。

大韓体育会・市・道体育会はスポーツ倫理センターの懲戒要求を未履行してもいかなる制裁も受けない。文体部関係者は「自律的集団で『人事権』がある者が懲戒できる構造だ。文体部が直接懲戒をするには法改正が必要だ」と話した。続けて「現在は懲戒要求に対する返事期限がない」とし「返事期限を明文化したり懲戒要求に対する返事がない機関に対しては予算削減のような制裁手段を用意する方針を検討中」と付け加えた。文体部が手をこまねいている間、被害は勇気を出した申告者の役割として残るしかない。チョ・ウヨン監督事件に対しても懐疑的な声が出ている理由だ。

中央大学校スポーツ情報テクノロジー研究所のホ・ジョンフン所長は「現在の懲戒決定システム上、自分の家族庇護につながったり、見せかけ式懲戒が出てくる恐れが大きい」として「スポーツ倫理センターの調

査専門性補完、機能拡大などの代案が用意されなければならない」と話した。 体育市民連帯のホン・ドクギ執行委員長は「スポーツ界の人権侵害を改善するためには実質的な申告システムの用意、懲戒基準の明確性および細分化、申告義務制の定着、一罰百戒システムの用意など制度の実効性改善が要求される」と強調した。

出典：<https://www.sisajournal.com/news/articleView.html?idxno=280060>

05 デイリーアン 2024.01.01

「悪化の一途」文化体育観光部 VS 大韓体育会、甲辰年は前に進むのか



新しい年が昇った今、新しい希望も浮かぶだろうか。

2024年パリオリンピックなど山積した課題を控えた甲辰年の初日が明けた。

体育界の関心は、韓国スポーツをリードする2大軸である文化体育観光部（以下、文体部）と大韓体育会が昨年、破裂音を減らして調和できるかどうかだ。

長年の葛藤をめぐって文体部と大韓体育会は最近になって悪化の一途をたどっている。文体部は大韓体育会を管理・監督する上級機関だが、李ギフン現会長は以前の色々な政府にかけて文体部と対立している。尹錫悦政府の時も同じだ。

大韓体育会役職員と競技団体連合会労働組合は先月29日「大韓体育会と国家オリンピック委員会(NOC)分離に反対する」という立場を明らかにし主務部署である文体部長官の謝罪を要求した。

ユ・インチョン文化体育観光部長官は先月20日、あるメディアとのインタビューで「生活体育とエリート発展のために大韓体育会と大韓オリンピック委員会(KOC)分離検討が必要だ」と話した。莫大な国家予算を使う体育会を管理・監督しようと政府は以前にもKOCを体育会から分離することを推進したが、大韓体育会をはじめとする体育界の反発で志を成すことができなかった。

国家オリンピック委員会の地位、生活体育とエリート体育を担当するその他の公共機関の地位の2つの地位を持っている大韓体育会としては、KOCが分離すれば核心を失うことになり、以前から必死に反対してきた。

今回もそうだ。大韓体育会、競技団体連合会を中心に82の会員種目団体、国家代表指導者協議会など体育人一同は声明書を通じて「体育界を分裂させる無責任な発言をした」としてユ長官を糾弾した。大韓体育会とKOCが分離すれば、選手選抜と育成、五輪派遣など様々な事案で両団体が深刻な葛藤を生じ、種目団体と指導者が混乱することは自明だというのが反論の骨子だ。

大韓体育会は「国際オリンピック委員会 (IOC) 憲章に基づき、政治的、法的、宗教的、経済的圧力をはじめ、いかなる圧力にも屈せず、自律性を維持しなければならないと明示されている」と主張した。

この問題だけではない。最近、大韓体育会は体育政策をめぐって文体部と正面衝突の様相を呈している。昨年だけでも忠清圏ユニバーシアード大会の人事、スイス・ローザンヌ連絡事務所の設置などの事案で葛藤が生じた。

また、大韓体育会は文体部内の体育局をなくし、15部署の体育業務を統合した「国家スポーツ委員会」新設を主張し、文体部は体育会の「国家スポーツ委員会」設立主張に対して「政府内での慎重な議論と国会立法手続きを通さなければならない」という立場を明らかにした。

政府ソウル庁舎でハン・ドクス首相主宰で国家スポーツ政策委員会を開き、スポーツ振興基本計画を発表した日も、李ギフン会長は出席しなかった。むしろ大韓体育会と会員種目団体、市道体育会、市郡区体育会などの体育団体は、国家スポーツ政策委員会の構成および運営と関連した文体部の一方的な業務推進に強い遺憾を表明する共同声明を出した。

文体部は大韓体育会声明書発表に対して「民間委員検討過程で色々な経路で専門家推薦を受け、最終的に体育会推薦人事が委嘱されなかった。委嘱は政府の固有権限で、体育会が一方的に不参加を通知し、声明書を発表したのは公共機関として不適切な行動であり、非常に残念だ。推薦した人事が無条件に反映されなければならないということは過度な要求」と対応した。

両機関の頻繁な衝突にもあまり関心を示さなかった階層の注目まで集めた決定打は「ワンチーム 코리아」海兵隊キャンプ。

昨年10月、李ギフン大韓体育会長は杭州アジア大会代表チームの解団式で海兵隊キャンプの話を持ち出した。当時、李会長はアジア大会結果に内容に多少物足りなさを表わし「私を含む国家代表選手団が海兵隊訓練を受けるだろう」と話した。

体育界の一部での懐疑的な反応にも「挑戦、団結、協同を教育し恐怖克服教育を実施する」という大韓体育会は先月海兵隊キャンププログラムを強行した。

共感を得られなかった否定的な世論の中で行われた国家代表選手海兵隊キャンプは、すっきりしない後味を残して幕を閉じた。「旧時代的な発想」、「選手団負傷の憂慮」という指摘が殺到した。現在、各種目の選手団がパリ五輪の国家代表に確定したわけでもない時点なので、李会長と大韓体育会の決定はこれ以上支持を引き出すことができなかった。

さらにユ・インチョン長官もマスコミとのインタビューで、「科学的な種目別訓練で技量を引き上げなければならないが、このような方式は旧時代的な発想だ」と指摘した。

続いて「夏季五輪に備えるためには選手たちが力量を発揮するオーダーメイド型練習方法をさらに研究しなければならない。厳冬雪寒に選手たちの負傷の恐れもある。精神力強化は（鎮川）選手村でもいくらでもできる。干渉するという言葉が出そうで見守ったが、時代に合わない方法だ」と皮肉った

ユ・インチョン長官まで「旧時代的な発想」という表現を使いながら鋭く批判、海兵隊訓練を主導した李会長に向かって直撃弾を飛ばした姿になった。そのようにして文体部と大韓体育会の続いた葛藤関係だけがさらに浮き彫りになった。

2024年は総選挙（4月10日）を控えている。大韓体育会長選挙も行わなければならない。現在としては、李ギフン会長が3選に挑戦する可能性が高い。大型選挙を控え、体育界内の分裂はさらに深まるだろうという懸念の声が高まっている。最大のスポーツイベントであるパリ五輪を控え、皆が力を合わせて選手たちが培ってきた技量を精一杯発揮できるよう支援することだけに行政力を集中しても足りない時点だ。二つの軸が互いの価値と立場を尊重し、韓国体育を積んで一緒にかみ合って転がることのできるか帰趨が注目される。

出典：<https://www.dailian.co.kr/news/view/1312679/?sc=Naver>

06 週間スポーツニュース

馬事会柔道団、「職場運動競技部優秀運営チーム」優秀賞受賞

https://sports.khan.co.kr/bizlife/sk_index.html?art_id=202312292324003&sec_id=561501&pt=nv

国民体育振興公団、軍将兵オンライン不法賭博予防功劳感謝牌受賞

<https://sports.chosun.com/sports-news/2023-12-28/202312280100168620024297?t=n1>

体育施設の外部人料金引き上げ…南楊州の館外利用客が泣く

<https://www.kyeonggi.com/article/20231227580246>

「公共体育施設利用不公正」指摘…仁川ミチュホル区の代案づくり

<https://www.yna.co.kr/view/AKR20231229094500065?input=1195m>

高校生の教え子と数回性関係…20代の体育教師を拘束

https://www.newsis.com/view/?id=NISX20231227_0002572274&cID=10201&pID=10200

完州郡、スポーツ界と手を組んでスポーツマーケティングに拍車をかける

https://www.newsis.com/view/?id=NISX20231229_0002575543&cID=10808&pID=10800

体育会・競技団体労組、大韓オリンピック委員会分離反対の立場表明

https://www.newsis.com/view/?id=NISX20231229_0002575515&cID=10501&pID=10500

チョン・ジンワン大韓障害者体育会長「壁を崩すオウリム体育活性化」

<https://www.asiatoday.co.kr/view.php?key=20240101010000078>

小1・2「体育」教科分離検討…小3・4で体力評価を拡大

<https://www.khan.co.kr/national/education/article/202312261403001>

体育市民連帯オンライン 定期後援案内

万人が楽しむスポーツ世界、体育市民連帯が共に作ります。

私達連帯の活動に積極的に賛同していただくことを願います。

私たち体育市民連帯は体育人の権益保護と
福祉実現のために努力しています。
皆さんの小さな心づかいがより良い世界のための

体育市民連帯活動に強固な土台となります。
体育市民連帯会員として力になろうと
される方は下の口座に後援をお願いします。

国民銀行 086601-04-095940

口座名義：体育市民連帯

オンライン定期後援は下のリンクを通じてホームページからできます。

多くの関心をお願いします。

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 孝寧路 230 スンジョンビル 407号

Tel：02-2279-8999、E-mail：sports-cm@hanmail.net ホームページ：<http://www.sportscm.org/>

日本語訳：佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 jr1fep@gmail.com

週刊ニュースレターバックナンバー（資料室） <http://www.yg.jpn.org/sportscm/index.html>